



尼崎と作家たち 第37回

伊丹 三樹彦(いたみ・みきひこ)

俳人



1920(大正9)年伊丹市生まれ。兵庫県立工業学校建築科を卒業後、神戸市経理部建築科に勤務。

1937(昭和12)年に伊丹三樹彦のペンネームを用いて日野草城の雑誌「旗艦」に投句を始めた。戦後「まるめろ」を創刊。1949(昭和24)年草城主宰の「青玄」に合流する。師の没後は同誌を主宰した。

1971(昭和46)年、尼崎市民芸術賞を受賞。

写真と俳句を組み合わせる「写俳」という新しい俳句のジャンルを創造し才能豊かな俳人と称された。

2019(令和元)年99歳で南塚口の自宅にて死去。

作品紹介



「阿檀 伊丹三樹彦第19句集」 角川書店 1998年発行

伊丹三樹彦の六十歳代の作品をたむらちせいが編集・解説。たむらは「句集『阿檀』が象徴する三樹彦の六十代は充実しつつも、なお新たな展開をめざすエネルギーが豊富な時代であった。それは七十代後半の現在にも持続されている。このパワーは私たち後続世代の範となり、大いに勇気づけられるのである」と綴る。

題名の『阿檀』は三樹彦の南方志向に由来する。沖縄の旅で戦跡を巡拝したときに接した実の阿檀(アダン)と花の梯梧(デイゴ)から、爆弾と鮮血の強烈なイメージを受けた。そして作られた句集の中の「守礼の国」は鎮魂の一連となっている。

ご存じですか？

尼崎市立図書館のホームページにログインすると図書貸出券のバーコードが表示できます。つまり、貸出券を忘れて来てもスマートフォンで貸出できるのです！

さらにもっと便利な図書館アプリとLINEがあります！



アプリ



アクセスはこちらから



LINE



アクセスはこちらから



常設三二展示

昭和前期の小学生の くらし

尋常小学六年生「レッテル採集」大公開



昭和前期の尋常小学校6年生の少年が缶詰やサイダーなどのレッテル(ラベル)を集め、ていねいにはがし、厚紙に貼り付けて自由研究として提出しました。大切に保管され、のちに当館に寄贈されました。その資料を一挙に展示します。また、当時の尋常小学校の教科書やくらしにまつわる資料や本も集めました。

期間：4月26日(水)まで 場所：2階 エントランス

中央図書館100周年記念事業

みんなのおすすめ本

教珠つなぎ

第29回

尼崎市ゆかりの方々に、愛読書・おすすめしたい本を紹介いただき、読書の輪を広げるリレー企画です。稲村 和美さん(尼崎市前市長)から推薦された方は…

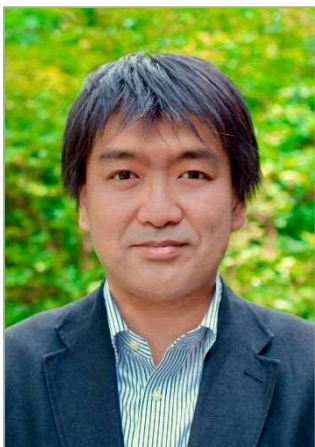
のじま ゆうすけ

能島 裕介さん

(尼崎市理事・尼崎市教育委員会教育次長)

『先生、どうか皆の前でほめないで下さい』

金間 大介／著 (東洋経済新報社 2022 年刊)



先生、どうか皆の前でほめないで下さい
全開大介
令和日本若者心理の驚くべき実像
い子症候群の若者たち
『先生、どうか皆の前でほめないで下さい』の主人公は、自分自身で悩んでいる若者たち。その人々の心の奥に、大人たちが気づいていない。著者は、その人々の心の奥に、大人たちが気づいていない。著者は、その人々の心の奥に、大人たちが気づいていない。著者は、その人々の心の奥に、大人たちが気づいていない。

ほめられたくない、目立ちたくないという若者が激増していると筆者は言う。その一方で若者は「究極のしてもらい上手」で大人たちはうまく利用されているらしい。こう書くと、この本は単なる若者批評ととらえられるかもしれない。しかし、筆者は、そのような社会を作った大人たちに奮起を促している。「挑戦や変化が成長につながらず、チャレンジしても得るものがない」と若者が思っているのは、大人がそう見せつけてきたからだ。」ぜひ、すべての大人に読んでいただきたいと思う。

レファレンス室から

～新刊紹介～

『世界のお菓子図鑑』

(地球の歩き方)

2022年12月発行

ラオスの「カオ・トム」、リトアニアの「シャコティス」、イスラエルの「マラビー」、フランスの「ガレット・デ・ロワ」、タンザニアの「ウブユ」…こんなお菓子知っていますか？ 113の国と地域、日本47都道府県のローカルおやつの雑学と解説がぎっしりたっぷり詰まった、甘党にはたまらない図鑑です。



この資料は3階レファレンス室で
ご覧ください。貸出はできません。

3階レファレンス室では、調べもののお手伝いをします。遠慮なくお声がけください。

こんな質問がありました！

「日展」の昭和初期の
作品図版が見たい。



当館所蔵の『創美』(創美書院) 2007年1号の記事“日展100年”によると、「日展(日本美術展覧会)」は1946(昭和21)年春に第1回が開催されており、大正～戦前までは「帝展(帝国美術院美術展覧会)」という名称で開催されていました。国立国会図書館デジタルコレクション送信館(個人登録者)限定資料として、『帝国美術院美術展覧会図録』(美術工芸会)『帝展集』(画報社)などの当時の受賞作図録をパソコンの画面で閲覧することができます。

こんな本 入りました

～一般室の本棚から～

『ある行旅死亡人の物語』

武田 惇志・伊藤 亜衣/著 (毎日新聞出版)



2020年4月、ある高齢女性が尼崎市のアパートでひっそりと亡くなり、部屋には現金約3400万円が残されていた。限られた遺留品を頼りに記者たちが見つけたその女性とは…。 “行旅死亡人”にもそれぞれの人生があり、その痕跡がどこかに残されている。

『暮らしっく』

高橋 久美子/著 (扶桑社)



作家で詩人、作詞家でもある著者が東京と愛知の二拠点生活をまとめた一冊。古い一軒家に住み、手作り野菜とご飯、物は捨てずに物々交換…。飾らない、無理をしない暮らしが等身大に綴られている。

『ワンダーランド急行』

荻原 浩/著 (日経BP日本経済新聞出版)



ある朝、通勤と反対方向の電車に乗ってしまった40歳の野崎修作。山の中をさまよい、戻ってくると誰もマスクをしていなかった！元の世界に戻ろうとするも、異世界を抜けるとまた異世界。彼の運命はいかに…。

『北京での出会い もうひとりのオーレリア』

ジャン・フランソワ・ピレテール/著
笠間 直穂子/訳 (みすず書房)



中国古典思想の研究者である著者は不意に妻の文(ウェン)を失った。喪失感を日々書き留めた「もうひとりのオーレリア」と若いふたりの恋を描く「北京での出会い」。分かちがたい両者から成る奇跡のような物語。

3月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

開館時間 **9:00~20:00**

※ 印は休館日です。

※ ○ 囲み(日・祝)の開館時間は17:15まで。

朗読の会 おはなし玉手箱

対面朗読ボランティア 花みずき

日時 3月14日(火) 午後2時~3時
(毎月第2火曜日)

場所 1階セミナー室

読み物 『佐賀のがばいばあちゃん』

島田 洋七/作(他)

※次回は4月11日(火)です。

◆おはなしの会

14:10~14:25 子ども(0~3歳くらい)と保護者

14:30~14:50 4歳くらい~小学生と保護者

14:55~15:15 小学生

●コアラくらぶ

11:00~11:20 0~3歳と保護者



詳細はホームページまたは子ども向け図書館だより
「本と友だち」をご覧ください

特集コーナー紹介

エントランスでは毎月、季節や話題のテーマに関する本を集めて、特集コーナーを設けています。ご来館の際は、ぜひご覧ください。

3月の特集は...

WBC

野球に関する本



画家ピカソ

没後50年



春

春を感じる本



担当者のつばやき

今年の冬は特に寒い冬だというわけではなかったようですが、1月に強い寒気が流れ込んで雪が降ったことが印象に残りました。少しずつでも暖かくなると、桜のつぼみもふくらみ、気持ちも明るくなりますね。開花が待ち遠しいです。(M.Y)



4月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						